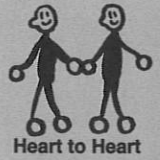


ともしび通信



第27号
2001年4月発行

コープともしびボランティア振興財団

〒658-0084 兵庫県神戸市東灘区甲南町2丁目1番20号 (コープリビング甲南2階)
TEL078-412-3930 FAX078-412-3871
発行人=竹本 成徳 編集人=宮内 明彌

大好評!

読み聞かせボランティア講座を開催

今回は、定員30人に対し、50人もの方からのお申し込みがあり、ボランティアとしてのこの分野へ



たくさんの絵本を紹介しながら話される吉岡素子さん

の関心の高さがうかがえました。最初の2回は、主に読み聞かせ

について、「子どもが本を読んでもらうことの意味」「子どもに読んで知る絵本の世界の楽しさ」をテーマにお話いただきました。

子どもに読むにはまず、自分がおもしろいと思うことが大切、ただし子どもにおもしろさを押しつけないこと。字を読めることが低年齢化しているけれど、字が読めること、お話がわかることは別。幼いときにわくわくするファンタジーを体験すると、成長してもファンタジーに入っている、そして子どもが本をしっかり読めるよ



らのお話と思わず笑ったり引き込まれたり。

また、ボランティア活動をしていくうえで、公共図書館の活用をもっとしてほしいこと、児童書担当者と仲良くなり、新しい情報や

うになる基本は、まずはたっぷり読んでもらうこと、といったお話は大変わかりやすく、多くの絵本を紹介しながら

本を手に入れること、一方、たくさん読んでからしか活動できないと思わずに、活動と読むことを並行させていきましょう、との励ましの言葉もいただきました。

後半2回は、ストーリーリングについて。絵本を使わずに「おはなしを語る」楽しさ、おもしろさ、その後で絵本を見る喜び、そしてなにより子どもたちの反応から学ぶことの多い活動であることをお話いただきました。

参加後のアンケートでも、これをきっかけに活動していきたい、という声が多く寄せられた、充実した講座でした。

「不自由のないことが当たり前じゃない」 高齢者疑似体験を指導

コープこうべ職員研修などで

2月19日(月)と26日(月)の2日間、コープリビング甲南で行われたコープこうべの入所2年目職員研修

で、高齢者疑似体験を行いました。この疑似体験は「浦島太郎」のニ

ックネームのとおり、ほぼ80歳の高齢者の体の動き、目や耳の不自由さを体験できるもの。店内を歩き、ポップや価格表示の見にくさ、

陳列の高さを実感すると同時に、高齢組合員のレジでの支払いの不自由さを身にしみて感じる学習となったようです。

「職員研修レポートより」この疑似体験で高齢者への認識が変わったという声が49人中46人。ポップや商品名が思った以上に見にくかった。

・めーむの字の見えにくさ、OCR注文書の書きにくさに驚いた。
・レジが混んでいるときに小銭を出されると、つい焦ってしまうが、ご本人が一番焦っていると思う。
・商品の並べ方、ポップのつくり方など工夫していきたい。
また、2月17日(土)、18日(日)には柏原厄神祭にも参加し、コープエコー柏原のコープ委員さんとともに、「浦島太郎」を体験してもらいました。「おばあちゃんは、こんな感じでおるんやな」「きつうに、ゆわんと、やさしいにしてや



高齢者疑似体験 柏原厄神祭で

らな」など在宅介護の多い地域ならではの反応に、体験の大切さを改めて感じました。